

女なのか彼女なのかどっちや

七月二十七日 月曜日

女なのか彼女なのかどっちや

四時四十分、起床。

目が少し赤い。
完全なる寝不足。
歯磨き、洗面をすまし、再び、寝る！

六時四十分頃、再び起床。

曇り。

待望の九州を目前に、
陸がゆっくりと見えてきて、目がまるくなる。
到着、上陸。
しかし、体はだるい。

別府港からすぐバスに乗換え、国鉄の駅へ。

曇りの為か、僕の心に、かすみがかかっているのか、
別府駅への道は、色あせて、きたなく、
別に、特異のない、つまらぬ家並みの風景に見えた。
列車も古い。

「そうか、京都、大阪は都なのだ。
ここはいなか、田園地帯だ。
いなかは、いなかの心がある。
どうせ来たんだ、それを味わおう。」